■ 関連文化財群の構成要素（ストーリーに関係するレガシー・リスト）

No.	文化財名称	指定等の状況	説明	所在
1	旧大倉ジャンプ ェ（現：大倉山ジ ャンプ競技場）	さっぽろ・ふ るさと文化百 選	大倉男爵が資金を提供して、昭和6年に完成した。昭和47年（1972年）、平成12年（2000年）に改修。1972年冬季オリンピック大会では、スキー飛躍競技で使用され、現在も国内外の夏・冬のスキージャンプ競技が多数行われる。場内に札幌オリンピックミュージアムを併設。	札幌市中央区 宮の森 1274
2	スキー・スケート の伝来（札幌オリ ンピックミュ ージアム収蔵品）	さっぽろ・ふ るさと文化百 選	スケートは、明治10年、札幌農学校のアメリカ人教師のウィリアム・ブルックスが持ち込んだのが始まり。スキーは明治41年、スイス人教師のハンス・コラーにより札幌で初めて紹介された。学生らに受け入れられたスキーは、三角山や宅地化される以前の宮の森一帯の傾斜地、円山南斜面などのフィールドで楽しまれ、市民に愛好者を増やしていった。札幌オリンピックミュージアムでは、これら札幌へのウインタースポーツの伝来がわかる用具の展示や解説を見ることができる。	札幌市中央区 宮の森 1274 札幌オリンピ ックミュージ アム内
3	ヘルベチアヒュ ッテ	さっぽろ・ふ るさと文化百 選	大正末期から昭和初期に来札したスイス人建築家マックス・ヒンデルが、当初個人用に設計したヒュッテ。昭和2年建築。現在は北海道大学の所有。ヒンデルは、手稲パラダイス・ヒュッテ、空沼小屋も手掛け、それらはヒンデルのスキーヒュッテ三部作として知られている。	南区定山溪
4	パラダイス・ヒュ ッテ	指定なし	北大スキー部創立15周年事業として大正15年に建築。老朽化が進み昭和53年から閉鎖されていたが、平成6年「手稲パラダイスヒュッテ再建期成会」により、原設計を基に復元した新ヒュッテが建設された。 昭和3年に秩父宮さま・高松宮さまが来札、同ヒュッテに滞在された際、大野精七博士率いる北大スキー部の面々を前に「将来日本で冬のオリンピックを開催するとなれば、雪質が良く、大学都市である札幌がいちばん適当であると思う」（秩父宮さま）として、冬季オリンピック招致の将来構想を語られたエピソードが残っている。	手稲区手稲金 山

5	空沼小屋	指定なし	昭和3年(1928年)、北海道および日本のウィンタースポーツ史上極めて先鋭的と言える、札幌近郊のスキーツアー・コースとこれらを繋ぐHütten Kette「山小屋の鎖」構想の一環として建築。ヒンデルのスキーヒュッテ三部作であり、北海道戦前期のログ工法建築の数少ない遺構。	南区空沼岳
6	宮の森ジャンプ競技場	指定なし	スキージャンプ70m級(現在のノーマルヒル)の会場となり、大倉山の競技場と同様、現在も様々な競技大会に使用されている。この競技場を舞台に、日本の笠谷幸生(金)、金野昭次(銀)、青地清二(銅)が表彰台を独占した快挙は、1972大会のハイライト。	中央区宮の森1条18丁目
7	聖火台	指定なし	開会式会場となった真駒内スピードスケート競技場に設けられた聖火台は柳宗理のデザイン。アテネより引き継いだ聖火は30日かけて日本各地を巡った後、この聖火台へ点火され、大会期間の11日間にわたってシンボルとして燃え続けた。 このほか、スキー競技の回転・大回転が行われた手稲山の競技場(現:SAPPORO TEINE)には分火台として同じく大会終了まで聖火を灯した聖火台が、札幌市役所の大通公園に面した正面にもセレモニーで用いられた聖火台が設置されており、今に残されている。	南区真駒内/ 手稲山/札幌市役所本庁舎
8	旧真駒内スピードスケート競技場(現:真駒内公園屋外競技場)	指定なし	スピードスケート競技及び開会式の会場。聖火台が今も残されている。現在は、冬季はスケート場、夏季はテニスやフットサルコートに利用されるほか、各種スポーツ大会やコンサートなどの催物の会場として利用される。	南区真駒内公園
9	旧真駒内屋内スケート競技場(現:真駒内公園屋内競技場)	指定なし	アイスホッケー競技・フィギュアスケート競技及び閉会式に使用された。多雪地域としては日本国内初となる大ドーム建築。現在は全国規模や国際規模の競技大会や各種イベントのほか、アイスショー、コンサート会場などにも使用される。	南区真駒内公園
10	旧オリンピック村(現:真駒内団地)	指定なし	大会では男子選手村として利用された。賃貸住宅として利用されている現在でも、外壁に雪の結晶をモチーフにした大会エンブレムが掲げられるなど名残りをを見つけることができる。	南区真駒内緑町

11	五輪大橋	指定なし	開会式やスケート競技など真駒内会場にアクセスするため「五輪通」と呼ばれる道路(道道 82 号線) が造られ、当時の北の沢大橋が「五輪大橋」と改称された。	南区川沿 2 条 1 丁目
12	真駒内の彫刻群	指定なし	大会の中心となった真駒内地区には、真駒内公園を中心に、五輪のシンボルとして建てられた本郷新作「雪華の像」、五輪大橋両端の「花束」(本郷新)「飛翔」(山内壮夫) など、札幌ゆかりの彫刻家らの手による野外彫刻群が残されている。	
13	手稲山	指定なし	ボブスレー、リュージュ競技のほか、大会唯一の市外競技場であった千歳市の恵庭岳とともに、アルペンスキー競技が行われた。スキー競技の回転・大回転が行われた競技場には、聖火台が残されている。	手稲区
14	札幌市営地下鉄南北線(北 24 条～真駒内)	指定なし	昭和 46 年(1971 年)12 月 16 日(五輪開幕の 1 か月半前)、現在は麻生と真駒内をつなぐ市営地下鉄南北線のうち、北 24 条～真駒内間が先行開業した。札幌市近代都市化の象徴的な出来事。	北区北 24 条～南区真駒内
15	さっぽろ地下街	指定なし	冬季オリンピック開催と地下鉄建設を契機に、国際都市を目指す「札幌の新しい顔」として、大通地下街のポールタウン・オーロラタウンが産声をあげた。	中央区大通
16	旧美香保屋内スケート競技場(現:美香保体育館)	指定なし	フィギュアスケート競技に使用された。現在は夏季は体育館、冬季はスケートリンクとして使用されている。	東区北 2 2 条 東 5 丁目
17	旧月寒屋内スケート競技場(現:月寒体育館)	指定なし	アイスホッケー競技に使用された。現在は、屋外テニスコートも隣接した通年型スケートリンクとして使用されている。	豊平区月寒東 1 条 8 丁目
18	旧手稲山回転・大回転競技場(現:SAPPORO TEINE)	指定なし	スキー競技の回転・大回転で使用され、現在は、大会で使用された 2 キロ女子大回転コースと 700 メートル男女回転コースなどのオリンピックの名残のあるスキー場として利用されている。	手稲区手稲金山
19	エドウィン・ダン記念館	登録有形文化財	明治 20 年建築。下見板張、寄棟造で、正面中央の玄関及び屋根窓は切妻造。開拓使が招いたエドウィン・ダンの指導のもと明治 9 年に創設された開拓使真駒内牧牛場は、開拓使	南区真駒内泉町 1 丁目 6

			<p>の廃止後、農商務省の所管となり、明治 19 年 (1886 年) には真駒内種畜場と改称、昭和 21 年 (1946 年)、米軍に接収されるまでの 70 年間、北海道の酪農畜産は、この地を中心に発展した。建物は現在、真駒内公園南にあるエドウィン・ダン記念公園内で一般に公開され、ダンの業績をしのぶ展示を通して、大会の中心となった真駒内地区のルーツに触れることができる。</p>	
--	--	--	---	--